

当院消化器内科の近況報告

内科(消化器・肝臓) 管理部長
前川久登

ご紹介患者の症例報告

第5回 眼科
部長 吉筋 正雄

連携医療機関から

大きな期待とほんの少しの要望
口羽医院院長 口羽謙二

News & News

- 第4回 品川・高輪医療セミナー開催報告
- せんぼ医療感染講習会のお知らせ
- 「人間ドック健診施設機能評価」認定
- 新任医師紹介



せんぼ

東京高輪病院

地域医療連絡室

〒108-8606
東京都港区高輪3丁目10番11号
tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

当院消化器内科の近況

せんぼ東京高輪病院
内科(消化器・肝臓) 管理部長



まえかわ ひさと
前川 久登

日頃より地域の医療関係の皆様には大変お世話になっております。現在、当院の内科(消化器・肝臓)は5人のスタッフにより、消化器一般を対象とした診断、治療を行っています。診療内容は消化管疾患から肝胆臓までほとんどの疾患の精査、加療が可能と考えています。さまざまな検査を行った上、内科的・外科的治療、そして必要に応じて関連施設である昭和大学、東京大学の附属病院およびその関連施設や地域の周辺病院での更なる精査加療を行っています。

最近、当院では内視鏡の機器を新たにし、経鼻内視鏡検査を導入しました。例数はまだ限りがありますが、これまでに経験した患者様の評判も上々のようで、必要に応じて今後は順次増加させていく予定です。先生方のご要望がありましたら、ぜひともお応えする所存ですのでよろしくお願いたします。

当院は、2004年後より肝臓学会の認定施設となり、2005年度より消化器病学会の認定施設となっております。また、昨年度より東京都肝臓専門医療機関にも指定されています。ここ数年の慢性C型肝炎の精力的な精査、加療の進歩のおかげで多くの患者様が完治されています。しかし、それでも年齢や合併症のために治療を受けることが可能でなかった方や、治療そのものが無効であった方などがいまだ数多くいらっしゃいます。そのような患者様には基本的に、肝庇護療法が主体の治療となると存じますが、肝疾患の進

行とともに肝硬変時に対する精査、特に肝細胞癌に対する精査も忘れてはならないことと思われれます。

また、B型肝炎についても同様の認識が必要と思われれますが、特にセロコンバージョン後の肝機能検査の安定している患者様の場合、腹部超音波などの検査をつい、忘れてしまうことがあり注意が必要です。もし、先生方からのご要望がありましたら、腹部超音波、そして必要に応じて第二世代超音波造影剤使用による造影エコー、CT、リゾビストを用いたMRIなどの精査をさせていただきます。継続的に先生方の元にて、つつがなく患者様の管理をしていただくべく協力させていただきます。

また、最近のB型肝炎に対する抗ウイルス剤の導入、管理や慢性C型肝炎に対してインターフェロン治療を含めた病気の説明なども協力させていただきますので、ご要望がありましたらご一報ください。



新しくなった電子内視鏡システム



いつも患者様のご紹介、まことにありがとうございます。

ご紹介の一番多い、白内障の患者様の症例を、ご報告させていただきます

【症例】

症例1

71歳、女性。白内障の進行により、視力が低下し、手術目的で、K眼科医院より紹介。2007年12月6日当科初診。右視力0.3(矯正0.3)、左視力0.3(0.3)。両眼に白内障。左眼は、1995年7月に網膜剥離の手術を受け復位していました。

2008年1月22日、術前検査(注1)および手術説明。

2008年1月30日、検査結果説明および入院前説明。右眼術前抗菌点眼(注2)を処方。

2008年2月4日AM入院、PM右白内障手術(PEA+IOL)施行。右眼手術後、左眼術前抗菌点眼開始。翌5日より、右眼術後点眼(注3)開始。2008年2月7日PM左白内障手術(PEA+IOL)施行。翌8日より、両眼術後点眼開始。術後経過良好でしたが、両眼充血が出現し、ミドリンPがしみるということで、アレルギーを疑いこれを中止。

2008年1月9日AM退院。退院後も、ミドリンP以外の両眼退院後点眼(注4)続行。

2008年2月12日、外来受診。右視力1.0(1.2)、左視力1.0(1.0)。洗面可とし、退院後点眼のうち、ガチフロ両4×・プロナック両2×点眼続行。

2008年3月10日、外来受診。右視力1.0(1.2)、左視力0.9(1.2)。術後経過良好で、退院後点眼全て中止し、ニフラン点眼両3×を処方。紹介元のK眼科医院へ、以後の診療を依頼しました。

症例2

81歳、女性。白内障の進行により、かすみ感が進行し、手術目的で、T眼科医院より紹介。2007年12月17日当科初診。右視力0.2(0.3)、左視力0.3(0.6)。両眼(右>左)に白内障を認め、前房がやや浅めとなっており、van Herick法で、右Grade2、左Grade3でした。このまま白内障が進行すれば、原発閉塞隅角症(PAC・PACS)となる可能性もありました。

2007年12月27日、術前検査および手術説明。

2008年1月8日、検査結果説明および入院前説明。術前抗菌点眼を処方。

2008年1月10日AM入院、PM右白内障手術(PEA+IOL)

施行。翌11日より、右眼に術後点眼開始。前房も深くなり、術後経過良好で、2008年1月12日AM退院。退院後は、右退院後点眼続行。

2008年1月15日、外来受診。右視力0.5(0.8)、左視力0.2(0.7)。洗面可とし、退院後点眼のうち、ミドリンP点眼中止、ガチフロ右4×・プロナック右2×点眼続行。

2008年2月5日、外来受診・入院前説明。右視力0.6(1.0)、左視力0.3(0.8)。右眼術後経過良好で、右眼退院後点眼全て中止。左眼術前抗菌点眼を処方。

2008年2月7日AM入院、PM左白内障手術(PEA+IOL)施行。翌8日より、左眼に術後点眼開始。前房も深くなり、術後経過良好で、2008年2月9日AM退院。退院後は、左退院後点眼続行。

2008年2月12日、外来受診。右視力0.6(1.0)、左視力0.8(1.0)。洗面可とし、退院後点眼のうち、ミドリンP点眼中止、ガチフロ左4×・プロナック左2×点眼続行。

2008年3月11日、外来受診。右視力0.6(1.0)、左視力0.7(1.0)。術後経過良好で、左眼退院後点眼全て中止し、ニフラン点眼両3×を処方。紹介元のT眼科医院へ、以後の診療を依頼しました。

注1:術前検査(角膜内皮細胞細隙灯検査・角膜曲率半径計測・眼軸長計測・全身検査)

注2:術前抗菌点眼(ベストロン4×、タリビッド眼軟膏2×朝・眠前)

注3:術後点眼:(ガチフロ4×、プロナック2×朝・夕、ミドリンP 2×朝・眠前)

注4:退院後点眼(ガチフロ4×、プロナック2×朝・夕、ミドリンP 1×眠前)

当院眼科の手術日は、月・木曜の午後であり、白内障手術当日午前入院で、片眼の場合1泊2日～2泊3日、両眼の場合、4泊5日～6泊7日で行っております。また、糖尿病などの合併症がある場合、内科医・他科医の協力を得ることができます。今後とも、ご紹介のほどよろしくお願ひ致します。

大きな期待とほんの少しの要望

口羽医院 院長 口羽謙二



いつも大変お世話になっております。高輪3丁目で内科医院を開業しております、口羽医院の口羽です。

当院にいらっしゃる多くの患者さんは、せんぼ東京高輪病院（以降せんぼさん）のことを親しみを込めて「お隣の病院」と呼んでいます。先代から口羽医院を引き継いだのは13年前ですが、特に現在の建物になってからの5年間は、それこそ「お隣の病院」にずいぶんと助けていただき期待に応えていただいております。

患者さんが急変して入院が必要な場合や、内視鏡やMR検査を始めとする詳しい検査が必要な場合、専門の先生による的確なアドバイスを受けたときなど、こちらが必要としているときに即座に対応して下さることが、当院のみならず地域の開業医にとっては誠にありがたいことでもあります。

先日、明け方に一時間ほど続く激しい胸痛を自覚された患者さんが車を運転して当院を受診され、心電図の結果は心筋梗塞の疑いでした。すぐに地域医療連絡室に連絡をさせていただき、その結果、直ちに心臓カテーテル検査とステント設置術を施行していただきました。

お陰様でその患者さんは無事健康を取り戻すことができ、お元気にしていらっしゃいます。

このように早めの対応が可能な方もいらっしゃれば、腹部や胸に大きな腫瘍が触れるほど、かなり病状が進行してから初診で来られる方もいらっしゃいます。そのようなときにも的確な御処置をして下さり、各科の先生方を始めとする病院スタッフの皆さまには心から感謝しております。

最近では「せんぼさん」の粋な計らいで「紹介元医師フリーパス」という制度を導入していただき、顔写真付の大きなパスを首から下げ、ご紹介させていただいた入院患者さんのご様子をスムーズに拝見することもできるようになりました。

私どものようなクリニックでは、できることにも限界がありますので、地域の診療所と「せんぼさん」を代表とする地域の基幹病院が、密接な連携を取り合い、お互いその利点や資源を活用しあうこと、それこそが利用者である患者さんにとっても非常に有意義なことだと思います。

最後に少しだけ要望を述べさせていただきます。

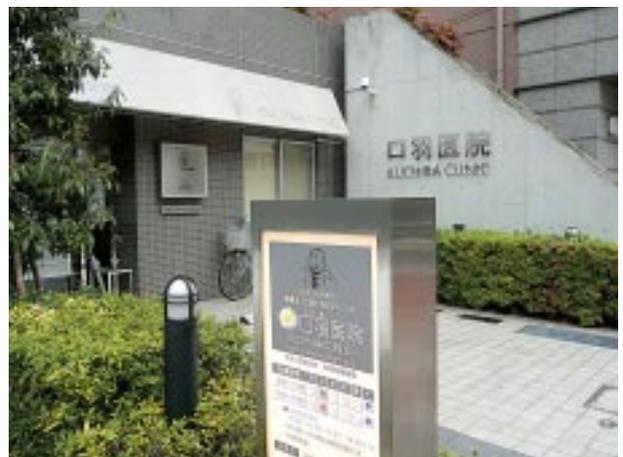
当院は在宅支援診療所として連携医療機関の登録をさせていただいております。在宅診療を行っていく上で悩ましい問題は、入院が必要な急変時ですとか内科的な処置では対応が困難な場合です。

現在当院で在宅診療を行っている患者様は約40名いらっしゃいます。お陰様で約14名がせんぼさんに入院などでお世話になっていらっしゃいますが、まだ急変時の対応先医療機関が決まっていない患者さんも10名ほどいらっしゃいます。

今後そうした方々を含め、前もって在宅診療を行っている患者さんの診療情報を提供しておけば、急変時などよりスムーズな対応をしていただけるような体制づくりを御検討いただけると、私たち地域の診療所にとっては大変助かります。また、専門の先生に相談あるいは臨時で往診をしていただけるようなしくみがあると、私を始め在宅診療をされている開業医にとって、これほど心強い存在はありません。

最後に大きなわがままを述べさせていただきましたが、これからの医療連携の一つのかたちとしてご検討いただけるとありがたいと思います。

今後も「お隣の病院」として更に発展していただき、私どもと良き連携を取りつづけてくださることを願っております。



口羽医院前景

第4回

品川・高輪医療セミナー 開催報告

5月13日、午後7時から外来ホールにて開催されました。外部医療機関から30名を含む90名が参加しました。今回のテーマは「職場とうつ」で、座長に(株)ソニーの統括産業医 石川俊次先生、講師に筑波大学大学院 人間総合科学研究科教授 松崎一葉先生を迎えて行われました。「現代の知的労働者における実践的メンタルヘルス対策」と題した講演があり、宇宙飛行士や職場でのメンタルケアについて非常にわかりやすく、実例を交えながらのお話でした。



せんぽ医療感染講習会 開催のお知らせ

医療機関における感染防止対策の一環として、昨年7月から開催しております「せんぽ医療感染講習会」は、回を重ねるごとに外部の皆様への参加が増えてきております。これからも季節的に流行する疾患や突発的な感染症についてタイムリーに開催してまいります。

今回は6月と7月に下記のとおり開催することとなりました。内容については話題の「新型インフルエンザ」と「耐性菌感染症」です。皆様の参加をお待ち申し上げます。

特別開催 「新型インフルエンザ」 港区医師会共催
平成20年6月30日(月) 午後7時～

演題 「新型インフルエンザの最近の話題」
グラクソ・スミスクライン(株) 森本一路氏、
「リスクマネジメントとしてのインフルエンザ対策」
グラクソ・スミスクライン(株) 奥村由香氏

第4回 講演「話題の耐性菌感染症

院内から市中に広がる耐性菌の脅威」

平成20年7月18日(金) 午後7時～

講師 東邦大学医学部 微生物・感染症教室准教授 館田一博先生

「人間ドック健診施設機能評価」認定

昨年の病院機能評価に続いて、当院7・8階に併設している健康管理センターが本年3月、有限責任中間法人日本人間ドック学会の人間ドック施設機能評価を受審しました。書類及び施設訪問審査の結果、日本人間ドック学会・人間ドック健診施設機能評価委員会が定めた基準をクリアして、去る4月26日に認定を受けました。今後ともよろしくお願いたします。



新任医師のご紹介

平成20年4月付



くにみ ちとえい
国見 基瑩
内科(人工透析室)部長



なかがわ あや
中川 彩
外科医師



おかもと さとし
岡本 悟士
整形外科医師



むらしま いっぺい
村島 一平
整形外科医師



すえいし みちあき
末石 通暁
心臓血管外科医師



ささき はら たつし
笹原 篤
脳神経外科医長



こん ひろこ
金 博子
麻酔科医師

編集後記

ゴールデンウィークも終わり、初夏を迎えるころとなりました。花粉症が一段落したのもつかの間、温暖化の影響でしょうか、先日は最高気温が沖縄より北海道が高くなったり、この時期に夏日を記録したり気候変動の激しい日が続いています。体調管理が難しい陽気になりました。お気をつけください。

今回のうえーぶでは、ご紹介元である口羽先生からの寄稿文を掲載しております。今後も折々に掲載していく予定です。各先生からの寄稿をお待ちいたしております。